

# 釧路南ロータリークラブ会報

第26回 例会報告 2015.1.23 通算1569回

・点 鐘 長倉会長

・ロタリーソング  
「それでこそロータリー」



ソングリーダー 亀岡 孝会員

・結婚祝  
森江 洋之会員 H6. 1. 29 (21年目)

・会長挨拶 長倉 巨樹彦会長



本日は、あいにくの悪天候の中、山辺ガバナー補佐、濁沼IM実行委員長に当クラブにお越しいただきありがとうございます。お天気の影響もあるのか、クラブの出席率も少ないようですが、お二人のIMのお話は、欠席者には私の方から伝えておきます。今日は、また3週連続の私の肩の話ですが、今週水

曜に東北北海道病院でMRIを受けてきました。先週も話したように、私は閉所恐怖症ですので結構大変だったのですが、何とか旧式のMRIで、両サイドが開いているタイプだったので目を瞑って途中、何回かスイッチが入りませんでした。頑張って終えることができました。

幸いに肩は、腱板の断裂ではなく炎症だけだったので、来週からリハビリで治るようです。

私が、この肩に拘っているのは、今年一年ゴルフができなくてもしょうがないとは思っておりましたが、東クラブさんで音頭をとって今期中に分区内でゴルフ大会を開催する予定がありますので、これだけは何とか出たいと思っているからです。

地区大会のゴルフの当クラブからは、2年連続で私だけの参加でしたので、親睦が目的ですので、上手い、下手関係なく参加していただきたいと思います。IMも本日の出席は少なかったですが、IMの参加者は多く会員に出席していただき、是非、成功させていただきたいと思います。

・幹事報告



- \* 釧路東RCよりIM開催の案内が届いています。
- \* 1月30日の例会に釧路北RCよりメイクアップ来訪が予定されます。多くのメンバーでお出迎えしたいと思います。

## ・委員会報告

**親睦委員会** 工藤 ゆかり 会員

### ・本日のニコニコ献金

森江 洋之会員 結婚祝として



## ◆IM開催について

### ・濁沼 英一 実行委員長より



本日は貴重な時間をお借りし、IMのお願いに参りました。3月7日釧路センチュリーキャッスルホテルに於いて、14時～19時30分の予定で開催いたします。テーマは「もう一度学び直そう本来のロータリーを」サブテーマとして「親しみやすいロータリーであるために」このテーマの下に、第一部では奥周盛ガバナーに基調講演をお願いし、第二部では清水PDG、足立PDGに講演をお願いいたしております。清水PDGには第七分区のロータリーの歴史を良く熟知されている事から地域を主眼にお話し頂き、足立PDGには帯広の地区大会で会長幹事会にて事前に配られたアンケートの結果からロータリーについてお話しいたします。

また、友愛の広場では地元のヒートボイスの歌とトークで楽しくご歓談いただければと思います。来る3月7日のIMに釧路南RCの全員登録と一人でも多くのご参加をお願い申し上げまして実行委員長としてのご挨拶と致します。

### ・山辺 文彰 ガバナー補佐より



本日は来る3月7日に実施いたします、IMへの参加、出席のお願いに参りました。ホストクラブは釧路東RCで、濁沼実行委員長の指揮のもと、28名の会員でこれにあたることになっております。「もう一度学び直そう本来のロータリーを」をテーマに「親しみやすいロータリーであるために」を、サブテーマと致しました。「会員増強、退会防止」は各クラブの抱える共通の課題であり、頭を悩ます問題であります。特に退会の理由となるものは、ロータリーが難しすぎる(用語・等)、つまらない、費用が掛かりすぎる、対人関係の不具合などでしょうか。そこで、誰もが「ロータリーってこんなに親しみやすいものなのか」「こんなに楽しいものなのだ」を感じていただくことを目的としたプログラムの内容になっております。

小学生に戻ったつもりで勉強し直していただければと願っております。併せて親睦の絆をより強いものとしてくださるようにおすすめ申し上げ、IMへのご案内とさせていただきます。

## ・本日のプログラム

### 「ロータリー理解推進月間に因んで」

担当 広報メディア委員会

#### ◆長井 一広 委員長



ロータリーの歴史や始まってからのことはよく聞くので、ポール・パーシー・ハリスがロータリークラブを始める前のことを話します。ポール・ハリスは、1868年4月19日ウィスコン州ラシーヌにて誕生。ラシーヌはミシガン湖の岸边、シカゴの北60マイル、ミルウォーキーの南35マイルにある小さな街。時代背景は1861年から4年間、南北戦争が始まり戦争の傷痕がまだ癒えてない時です。日本では1867年に大政奉還が行われた年です。父親のジョージ・ハワード・ハリスからは、高い教育を受けていた。科学的要素にあふれていたが、発明で手取り早く金儲けをしたがる癖があった。父親から買ってもらったドラッグストアを経営していたが一攫千金を夢見て浪費するため、父親が財政的援助していた。

母、コーネリア・ブライアン・ハリスの父親のラシーヌが、第二代市長だったがゴールドラッシュに資産をつぎ込み失敗し、家運が大きく傾く。子供のころは裕福な家庭に育ったため、金銭感覚に乏しく財政状態が悪化しても浪費を続けていた。ポールの兄弟は、兄と妹が一人ずつ、弟が三人です。1969年に妹の誕生で財政状態はさらに悪化し、1871年に父親が財政援助を断念した為、破産した。ポール（三歳）と兄は、父親と共に、バーモント州にある祖父の家へ、母は妹と共にラシーヌに残り、音楽を教えて生計を立てる。以後、祖父母がポール・ハリスの親代わりとなる。祖父母は、敬虔なキリスト教徒なので、ポールはその影響で偉大な人道主義運動が生まれた

と語っている。ポールと兄が通っていた小さな赤い校舎は、現在ロータリー記念建造物となっている。小学生のポールは、両親から躰けられなかったため、ありとあらゆるいたずらをした。ポールを含めた仲間は「村のならず者」だった。幼いころからリーダーとして才能、冒険心、不屈の勇気を発揮した。一度ニューヨーク州ケンブリッジ村で両親、家族と一緒にになったが、再度破産し祖父の下に戻る。祖父は、ポールに教育の価値を教え込み、初等教育終了後の高校・大学への道を確保した。進学準備のため校長の指導のもと、ウォリングフォード高校で1年を過ごし、ラトランド高校に入学。卒業後、バーモント州のブラックリバー・アカデミー（大学）に入学したが、あらゆる種類の好ましからぬ悪さをし、1年間で放校処分を受ける。祖父の意志で、サックストンリバーにある陸軍士官学校バーモント・アカデミーに入学する。陸軍少佐はポールに深い感銘を与え、勉学に励んだため抜群の成績を収める。1885年にバーモント大学に入学。1年半後、暴力事件の首謀者として退学処分を受けますが、後に名誉回復し、学位が授与される。この事件で自由奔放な性格が祖父母の悩みの種であることを思い知らされた。家庭教師をつけてもらい受験勉強を行い、1887年に19歳でプリンストン大学の入学試験に合格し入学したが祖父の死により経済的理由で大学を退学。ウエスト・ラトランドのシェルドン大理石会社に就職し給仕として働いた。勤勉に仕事をしたためその年に重要な仕事を任されるようになり社長も彼を高く評価し、今まで雇った中で最も有能な社員であると述べている。祖母から「祖父が、ポールに弁護士になって欲しかった。」と聞く。1889年アイオワ大学法律学部への入学が決まり、その前にディモン市で定評のある法律事務所ではばらく修業することにする。ポールは、アイオワへ向かう途中、シカゴに立ち寄る。新聞記者をしている大学時代の友人のところに数日間泊まる。当時アメリカで最も急速に成長している都市の一つといわれ、あらゆる人種、信条、文化からなる人間のつぼともいえるべき、シカゴの魅力にとりつかれる。腰を落ち着かせる時期がくればシカゴに住居を構えようと心に決める。

